

都市近郊の蔬菜栽培と酪農

——年収一三〇万円をあげた千葉県の天野さん——

平川哲夫

蔬菜作りの農家は、毎年豊作貧乏になってしまっている。こうした悪条件の中でも、一生懸命経営を研究し、高収益をあげている人に、千葉県船橋市前原町の、天野寛次さんがいる。今年五十九歳で蔬菜作りは、千葉県でこの人の右に出るものはない。

ハクサイテ農林大臣賞

ソウで特別賞を授与され、二十九年度の県の共進会では、ハクサイで農林大臣賞、三十年度は市の農産物共進会でホウレンソウとダイコンが特別賞、三十一年度には、ハクサイで千葉県知事賞、ダイコン、ホウレンソウ、サツマイモ、ハクサイの立毛共進会では全部特別賞。三十二年度には、ハクサイで千葉県知事賞、ホウレンソウが特別賞と、ここ五ヵ年間の成績は誠にめざましく、天野さんの優れた技術と努力のあとがはつきりとうかがえる。

なぜ優秀な作物が出来たか

どの畠を見ても、他の蔬菜農家と同じ作物で、これとして目新しいものはない。

どんな作物を作つて いるか

（前原町）は、総武線津田沼駅で下車して、六七分で、天野さんの家は前原町の入口で市街地から二、三分のところにある。家族は七人で働き手は四人（男二人、女二人）。これで前記一町八反五畝の田畠を耕して行くが、労働を助ける機械として、自働耕耘機（三尺幅）一台、荷物運搬用としてダッタサン一台、病虫害の防除器具としてミスト兼用機一台。主なものはこれだけで、都市近郊の集約経営をやり通している。

つて、牛乳は出る。牛乳は出る。牛乳は出る。

蔬菜栽培を中心として、酪農をむすびつけている経営のために、野菜の畑にも十分厩肥を入れることが出来、また野菜の残渣と、処理物が全部、乳牛と豚に与えられる。

ダイコン五畝、春播ゴボウ五畝、計一町四
反三畝でこれ等が主な販売野菜で、秋冬作
はハクサイ一反五畝、ホウレンソウ延一町
歩、ナガイモ五畝、沢庵用ダイコン五畝、
この外家畜用の飼料と自家用を兼ねて、サ
ツマイモ二反、青刈用トウモロコシ五畝、
ジャガイモ五畝、エンバク五畝、ビート三
畝、オカボ一反、ムギ類は風除けをふくめ

計 肉 乳 牛 豚

ものをいう地力の源は堆厩肥

乳牛三頭と豚二頭の厩肥は、全部畑に運ばれて行くが、厩肥が実にていねいに注意深く扱われて、十一坪の堆肥舎に、きちんととつまれていて、尿は堆肥へすぐかけてやれる。こうして出来た堆肥は野菜畑に入れ、他の家では真似の出来ない良質の堆肥を反当作八〇〇貫(三、〇〇〇疋)を目指としている。

筆者の質問に、氏は「深くね」と答えた。
深溝施肥ですか「ええ、そうです」ちよう
でトマト畑だつたのでそう答えたのでしょ
う。「今年の早魃でも影響は少なそうです」
といわれて、なるほど根群の発達が盛んだ
など感じた。

年々施す堆肥で畑の上は、近所の家の畑
の土とは、かなり違いがある。これまでに
するのに八年間かかつたそうで、增收の実
は「地力培養」の結果といえよう。

屋根のある農場

「身体の休む日があつても、飯の食わない
日はない」 こういう諺があるが、天野さん
は「作物を作らない日があつても、金の入
らない日はない」

タイコン五畝、春播ゴボウ五畝、計一町四反三畝でこれ等が主な販売野菜で、秋冬作はハクサイ一反五畝、ホウレンソウ延一町半、ナガイモ五畝、沢庵用ダイコン五畝、シナガイモ五畝、エンバク五畝、ビート三畝、オカボ一反、ムギ類は風除けをふくめと延三反五畝となつていてる。

この地帯はホウレンソウ、トマト、三寸八参、サツマイモの特産地で、どこの家でもホウレンソウの延一町位は作つてゐる。特産地だけに年間出荷しているのもまたこの地帯だけで、畑が休まず作られ、一部では微量要素欠乏の所も出て来て、県の対策の手が延びて二年目で、本年は結論が出そつである。

一・八万円
三・九万円
二・一万円
二・四万円

の手が伸びて二年目で、本年は結論が出そ
うである。

特産地だけに年間出荷しているのもまたこの地帯だけで、畑が休まず作られ、一部では数量を多く生産する。

て延三反五畝となつてゐる。
この地帶はホウレンソウ、トマト、三寸
人参、サツマイモの特産地で、どこの家で
もホウレンソウの延一丁畝は見つてゐる。

ジャガイモ五畝、エンバク五畝、ビート三
畝、オカボ一反、ムギ類は風除けをふくめ

ダイコン五畝、春播ゴボウ五畝、計一町四

家畜 ゴボウ

二〇万円

こういう経営のやり方で、野菜つくり農家でも、野菜を出荷出来ない日もある。従つてこういう日は金が入らないが、天野さんは、野菜の出荷を休んでも牛乳で金が入つてくる。雨の日も、風の日も屋根のある農場（乳牛舎）から毎日一二一三貫（五〇升）即ち二斗五升し六升（五〇立）の牛乳が生産され、売られて行く。やはり屋根のある農場を持つことが、厩肥を豊富に生産しひいては、こうした経営設計を生み出し高所得をあげる大きな原動力となるのである。

薬剤費を節減しており、蔬菜の荷造り等で暇がない時は、特に夜間撒布も行つてゐる。

出荷は東京市場と東北市場へ

都市近郊の蔬菜作りのあり方は、常に都に対し、新鮮度の高い野菜を出荷することで、この前原園芸出荷組合は、生産者が夕方取扱し、荷造りをして夜間東京市場に運搬する。従つて、暑い時期でも一番

東京市場までの道路が全部アスファルトの温度の低い涼しい時刻に運搬されるのと、市に対し、新鮮度の高い野菜を出荷することで、この前原園芸出荷組合は、生産者が夕方取扱し、荷造りをして夜間東京市場に運搬する。従つて、暑い時期でも一番

この園芸出荷組合は、昨年度からトマトの共同選果を実施しているために、単価が非常に良く、二一三割高に売れてゐる。

また東京市場出荷の外に、近郊地帯からの輸送園芸も行つてゐる。主として東北の出荷であるが、六月二十日～七月二十日までの夏野菜を青森県の三戸に送つてゐる。

これは東京市場が安くなると輸送物として販売するのである。東京の価格に比し約倍以上に売れるというから他の産地より遙かに率が良い。

また冬野菜（ホウレンソウ）も東北、北海道に送り、有利に販売している。

こうして販路を広くもち、販売の合理化をはかつてゐる。

ため、がたがためられることが少い。従つて、出荷組合で、天野さんの野菜は全部販売されて行くが、天野さんの庭先がこの組合の集荷所となつておけば、終つた物は、そこへ山積みにしておけば、集荷の自動車が持つていてくれる。

この園芸出荷組合は、昨年度からトマトの共同選果を実施しているために、単価が非常に良く、二一三割高に売れてゐる。

また東京市場出荷の外に、近郊地帯からの輸送園芸も行つてゐる。主として東北の出荷であるが、六月二十日～七月二十日までの夏野菜を青森県の三戸に送つてゐる。

これは東京市場が安くなると輸送物として販売するのである。東京の価格に比し約倍以上に売れるというから他の産地より遙かに率が良い。

また冬野菜（ホウレンソウ）も東北、北海道に送り、有利に販売している。

こうして販路を広くもち、販売の合理化をはかつてゐる。

輪作（作付方式）は近郊蔬菜を主軸として、計画が実施されている。図の如く多種多様な野菜を少しずつ作るのではなく、種類は少いが、量的に生産して販売している。

こういう考え方では、資材の種類が少くてすむし、栽培技術を取り入れる種類も少なければ、それだけ深く掘り下げた高度な技術を身につけられ、その高度な技術で栽培が出来ることと、作業能率の向上にも役立つ。これが天野さんの特徴とする点である。

経営の問題点

優秀品と多収は病虫害の防除で

およそ農作物で、病気と害虫のつかないものはない。これを徹底して防除するところに優秀品の生産と多収穫がある。

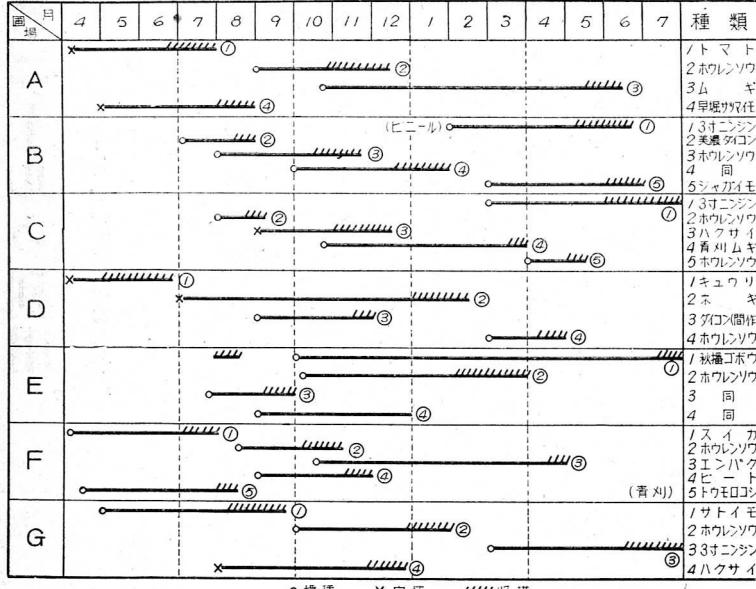
これには先ず予防と適期防除をしなければならない。そして薬剤撒布をして

も、完全な撒布でなければならないことから、動力背負ミス

ト機を、いち早く購入し、薬剤撒布を行つてゐる。

これで撒布労力と

蔬菜と酪農がともに両立するように考慮した主要作物の輪作



高度な輪作

天野さんの主要蔬菜の輪作をあげると、葉菜～果菜～根菜の順序になつておらず、毎年大体おなじような作物の取り入れ方がされていて、今年安いから来年やめるとか、今年高いから来年増やすとか、そういう價格の動きに特にこだわらずに近郊向蔬菜の種類を選択している。

土地の吸収力

土はいろいろな養分を吸いとる性質を持つてゐる。この吸いとる力を吸収力といふ。吸収力の強い土壤では、肥料成分の流亡は少いが、養分が不溶性に変つて作物に吸収されにくくなる可能性がある。吸収力の弱い土壤では、施肥した肥料が作物に吸収され易い反面、土壤から流亡する量が多い。

良普及所長・千葉県技師